



シッティングバレーボール

パラリンピック

身体障がい者が、座ったままプレーするバレーボールです。臀部の一部が常に床に接触したまま行います。

※ここでいう「臀部」とは、上体のことで、部位は肩から尻までです。

ルール

1チーム6人で臀部を床につけたまま、手や腕でボールを打ち合います。ラリーポイント制で25ポイント先取したチームが1セットを獲得(第5セットのみ15ポイント先取)し、5セットマッチで試合を行い、3セット先取したチームが勝利となります。

ポイント

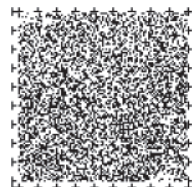
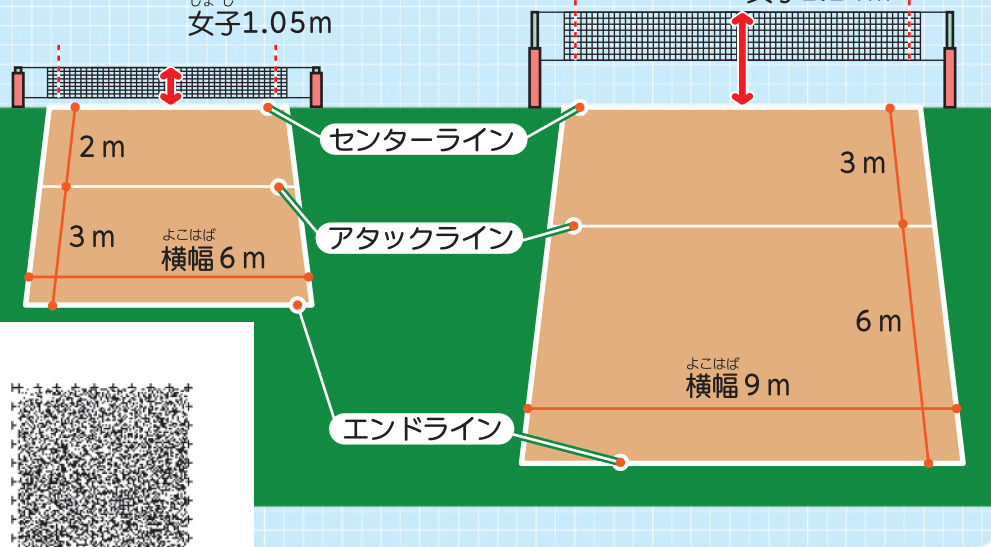
座位でプレーするため、コートのはしらは一般のバレーボールコートより狭く、ネットの高さも低く設定されています。

シッティングバレーボールコート

ネットの高さ: 男子1.15m
女子1.05m

一般のバレーボールコート

ネットの高さ: 男子2.43m
女子2.24m



知っておこう

反則: リフティング

プレー中に臀部が床から離れると、「リフティング」という反則になります。

ただし、レシーブ時のみ、ごく短時間であれば臀部が床から離れても許されます。



飛び跳ねると反則!



臀部を床につけた状態で競技する様子



床に接した状態で腕の力などで尻を滑らすようにしてコート内を移動

シッティングバレーボールは、1980年にオランダで開催されたアーネムパラリンピックから正式競技となりました。コートが狭くネットも低いため、より近い位置からスパイクやサーブが放たれ、スピーディーな展開が興奮を呼ぶ人気の競技です。

